



並木中等story

令和2年12月23日号②

12月23日の全校集会での講話の内容（①からのつづきです）です。

●並木中等が今の教育改革の最先端にいます。そのようなこともあり、15日には自民党の前政調会長、岸田議員や国光議員が本校を視察に来られたのです。

●どのような点で並木中等は思考・判断・表現の内容に強いのか。まず、アクティブ・ラーニングが充実しています。考える時間、表現する時間をたくさん取っています。ペアで、そして、グループで検討する時間も多いです。皆さんは友達又はグループよく、討論、話し合い、検討をしますよね。その際、より発展的な内容を生み出しているのです。

●例えば、2人が話をするとします。A君B君としましょう。A君のA案、B君のB案を話したとします。互いがリスペクト（尊敬）していると、二人はA案B案をさらに発展したC案を生み出してくれます。並木中等の生徒は、それを多くの人ができているのです。

●これらのことは本校のSSH運営指導委員会委員長・筑波大学・五十嵐沙千子先生も話されています。しかし、このこと、実は簡単なことではありません。重要な条件があります。それは「互いをリスペクト（尊敬）できること」です。もし、2人に上下関係があり、立場が弱い生徒が強い生徒に意見を出せなかったら、2人のレベルは強い生徒のレベルを越えられません。相手をバカにする友達関係では、このより高度な発想（シナジー）を生み出せないのです。並木中等の生徒は互いにリスペクトすることで、より高度な発想を生み出す素地ができていると思ってください。

●さらに、「課題探究」。皆さんは一人一研究実施しています。これが凄い。他校は何人かで一つの研究をするのが多いのです。皆さんは自ら問いを立て、ゼミで練った上で、スライドやポスターにまとめ、発表します。これにより思考・判断・表現の力を最大限引き出すのです。このシステムは、国内トップクラスです。皆さんは自信をもって並木の授業を受けてください。

●さて、皆さんはこの恵まれた環境、並木の凄さをどれだけ、活用していますか。皆さんには、この恵まれた環境を活かすチャンスがあるのです。このチャンスを無駄にすることはもったいないのです。実は、恵まれた環境にいても、その良さに気付かずにいる人もいます。また、ないものねだりをして、不満を言うことに終始し、良さを否定してしまう人もいます。これは宝の持ち腐れです。残念ですがこれも実力なのかもしれません。並木中等の皆さん、授業、ゼミ、部活動にしっかりと取り組んでください。先生にもどんどん質問してください。皆さんが力を発揮することを期待して、私の話を終わりにします。